

1 単元名 「おおきなかぶ」

2 単元について

本教材の重点指導事項は、学習指導要領のC読むこと(1)ウ(文学的な文章の解釈に関する指導事項)「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」である。本教材「おおきなかぶ」は、おじいさんが種をまき、大きく育ててなかなか抜けないかぶを人や動物が次々に加わって引っ張り、力を合わせて抜く物語である。くり返し同じ言葉がでてくるリズム感のある文章であり、児童にとって親しみやすい。「うんとこしょ、どっこいしょ。」というかけ声や「～が～をひっぱって」の反復、「ところが」「それでも」「まだまだ」「まだ、まだ、まだ、まだ」「それでも」「やっと」という接続語の変化によって児童の期待感が増していく。叙述をもとに場面を想像する力を高めていくというねらいに適した教材である。

本学級の児童は入学して2か月経ち、いろいろな学習に関心をもって意欲的に取り組んでいる。読み聞かせも大好きで、いつも集中して聞き、お話の世界を楽しんでいる。しかし、一人で読む「読書タイム」では、挿絵だけを見てページをめくって文を読んでいない児童もいる。国語の学習では、ひらがなの学習をして読み書きができるようになってきた。「あめですよ」の学習では、挿絵と文章を結びつけて場面を想像しながらリズムのよって音読することを楽しんだ。「とんことん」の学習では、動作化を取り入れながら読み取る活動を行い、想像を広げながら音読することができた。どの児童もしっかりと声を出し、読み方を工夫することに意欲的だが、内容の理解や人物の気持ちを考えることに関しては苦手な児童がいる。抽出児としたA児は、学習に対して意欲はあるが、状況理解が困難なため、一斉指示では内容が分からず、周りの様子を見ながら行動することがある。また、指示と違うことをするときもあり、失敗や間違いに対する不安感も高い。さらに、ひらがなの読み書きへの苦手意識も強く、音読は丁寧に読もうとするが、「～は」を「～が」と読み間違えることがある。登場人物の気持ちを考える活動では発言したり書いたりすることには消極的である。そこで、学習計画や学習のあしあとを視覚的に分かるよう提示する。ペア学習を取り入れたり板書を分かりやすく工夫したりすることによって、K児が見通しをもち、安心して学習に参加したり理解したりできるような学習を考えることによって、どの子にとっても分かりやすい授業になると考えた。

指導にあたっては、単元を貫く言語活動として、「音読劇発表会」をするという活動を設定した。毎時間の学習で役割を決めて音読したり、簡単な動作を取り入れた音読をしたりする。登場人物の気持ちを考え、役になりきって演じる活動を通して、児童が想像を広げながら楽しく読む力を高めていきたいと考える。授業における指導の工夫や手立てとしては、ユニバーサルデザイン化する3つの視点にもとづいて、以下のように考えた。

焦点化	視覚化	共有化
<ul style="list-style-type: none"> 学習計画表を作成し、単元全体の流れや各時間のめあてを明確にする。 繰り返しの表現に着目することで物語の読み方を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵を活用した板書を工夫して、場面の様子や人物の心情に気づかせる。 繰り返しの文や主語、述語の関係が分かるようにセンテンスカードで提示する。色分けにより関係をとらえやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアで考えを話し合ったり、全体で考えを交流しあったりして共有する場を設定する。 自分が動作化したり、友達の動作化した様子を見たりして気づいたことを伝え合う。

3 単元目標

声に出して読んだり場面の様子を想像したりしながら、音読劇をすることができる。(C読むこと)

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の出てくる順のおもしろさや、繰り返し出てくる表現などを楽しみながら、意欲的に読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 語のまとまりや繰り返しの表現に気をつけながら音読している。C(1)ア 次々に人物が加わる様子や、かぶが抜けたときの気持ちを想像して読んでいる。C(1)ウ 興味を持った物語を選んで読んでいる。C(1)カ 	<ul style="list-style-type: none"> 敬体で書かれた文章に読み慣れている。 主語と述語の関係に気をつけながら読むことができる。

5 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	学習活動	評価の観点と方法
一	1	全文を通読し、話のあらすじをつかむ。 読み聞かせを聞き、感想を発表し合う。 「音読劇発表会」をすることを知らせる。	・読み聞かせや音読で内容の大体を知り、劇読発表することに意欲的に取り組もうとしている。 【関】（発言・ノート）
	2	おはなしゲームを通して、登場人物と登場人物の出てきた順番を考える。 劇遊びをするときに必要な役を考えることで、会話文や地の文、語り手について理解する。	・登場人物の順や物語の内容の大体をとらえることができる。 ・会話文・地の文の違い、語り手について理解することができる。 【読】（発言・ノート）
二	3	1・2・3場面の様子を想像して動作化や音読をすることで、登場人物の行動や心情を読み取る。	・かぶの様子やおじいさんの気持ちを想像しながら音読したり、動作化をしたりしている。 【読】（音読、発言、動作化、ワークシート）
	4	4・5場面の様子を想像して動作化や音読をすることで、登場人物の行動や心情を読み取る。	・おばあさんや孫を呼んだときの様子や気持ちを想像しながら動作化をしたり、音読したりしている。 【読】（音読、発言、動作化、ワークシート）
	5	6・7場面の様子を想像して動作化や音読をすることで、登場人物の行動や心情を読み取る。	・犬や猫を呼んだときの様子や気持ちを想像しながら動作化をしたり、音読したりしている。 【読】（音読、発言、動作化、ワークシート）
	6 本時	8・9場面の様子を想像して動作化や音読をすることで、登場人物の行動や心情を読み取る。	・ねずみを呼んだときやかぶが抜けたときの様子や気持ちを想像しながら動作化したり音読したりしている。 【読】（音読、発言、動作化、ワークシート）
三	7 ・ 8	音読劇発表会の練習・発表を行う。	・登場人物になりきって、音読劇を楽しんでいる。 【読】（音読・行動）
	9	興味のある本を選んで読み、紹介する。	・興味をもった本を選んで読み、好きなところを紹介している。

6 本時について

(1) 本時のねらい

登場人物の気持ちや会話を想像して動作化したり、吹き出しに書いたりする活動を通して、かぶが抜ける場面の様子や気持ちを考えることができる。

(2) 準備物

教科書の挿絵、センテンスカード、吹き出し用短冊（児童）

(3) 本時の学習展開

	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応	指導の工夫と評価 ・その他の工夫 ◇評価【観点】※手立て
つかむ	1 本時の学習場面を読む。（8・9場面） ○音読をしましょう。 ・範読を聞く・・・ダウト読み ① ねずみ→くま ② 「うんとこしょ、どっこいしょ。」小さな声で ③ やっと→さっと ・点丸読みしながら、正しい読みを確認する。	【焦】 教師が間違えて読むことで、考えさせたい内容や言葉に着目できるようにする。 ① 小さなねずみが果たす役割 ② 全員で力を合わせて抜く会話文 ③ やっとの思いで抜けた喜び 【焦】 【視】 センテンスカードを提示することで、学習課題を把握させる。

	<p>2 ダウト読みで確認したことを考えながら、本時のめあてを把握する。</p>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">かぶがぬけるばめんのようすやきもちをみんなでかんがえよう。</div>	
むかう	<p>3 かぶがぬけないときの気持ちや会話を想像する。</p> <p>○それでもかぶがぬけないときの様子や気持ちについて、絵を見ながらお話ししましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんは、どうしたらかぶがぬけるかすごく考えています。 ・おばあさんは「こんどこそ、かぶをぬこうね。」と言っている。 	<p>焦 原著本のかぶが抜けずに困り果てている挿絵を見せて、様子や気持ちを考えさせる。</p> <p>異 絵を見て気づいたことや分かることについて全体で交流し合わせる。</p> <p>異 交流した内容を考えながら実際にペアで動作化させる。意図的指名により、動作やまねがうまくできているペアを紹介し、共有する。</p>
ふかめる	<p>4 やっとかぶが抜けるまでのみんなの気持ちや会話を想像する</p> <p>○6回目の「うんとこしょ、どっこいしょ。」はどのように読むとよいのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで声を合わせて読むと、みんなで力を合わせている感じがする。 ・かぶがやっと抜けるところだから、一番大きな声で読んだほうがいい。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">「～が～をひっぱって」の部分は、一列ずつ増えていく形で音読し、かけ声は全員で読む。</div> <p>◎やっとかぶが抜けたとき、みんなはどんなことを話したと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やったぞ！ ・やっと抜けてうれしいな。 ・みんな、ありがとう。 ・あきらめずにがんばってよかったね。 ・小さなねずみさんが手伝ってくれたおかげでぬけたよ。 ・みんなで力を合わせたから、かぶが抜けたんだ。 ・みんなでおいしいかぶを食べたいな。 	<p>焦 これまでの学習で使ったセンテンスカードで確認しながら、6回目の繰り返しの会話文であることに着目させる。また、学習の流れ図を見て、かぶを引っ張る人物が増えていくことにも着目させる。</p> <p>視 プール掃除の草取りで、草の根が太くてなかなか抜けなかったときにみんなで協力して引っ張っている様子の写真を提示し、自分達の経験とも結び付けて考えられるようにする。</p> <p>異 「うんとこしょ、どっこいしょ。」は、みんなで実際に動作をつけながら、声に出して言うてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話したせりふは吹き出しに書かせる。 ・机間指導しながら児童の考えを見取る。 <p>異 全体で意見を交流し合うとき、吹き出しは黒板に貼ってまとめる。考えたことを発表しながら児童に貼らせる。</p> <p>視 同じ内容ごとに分類しながら掲示する。</p> <p>異 ねずみの役割に気づいた意見やみんなで協力し合うよさに気づいているものについて意図的指名し、内容が深まるようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりが一生懸命にセリフを考えて書けたことをしっかり認めるようにする。 <p>◇かぶが抜けたときの様子や人物の気持ちを考えて吹き出しに書いている。</p> <p style="text-align: center;">【読】（音読・発言・動作化・短冊）</p> <p>※吹き出しが書けない児童へは、他の児童のつぶやきや意見をアナウンスして伝えることで思考の助けとなるようにする。</p>
まとめる	<p>5 様子や気持ちがわかるようにまとめの音読をする。</p> <p>○吹き出しに書いたせりふを、人物になりきって言うてみましょう。</p>	<p>異 友だちのせりふを聞いた感想を発表させ、思いを共有する。</p>

おおきなかぶ

め かぶがぬけるまでのようすやきもちを みんなでかんがえよう。

ねこは ~~かぶ~~ よんできました。

ねずみ

うんとこしょ どっこいしょ (こえのおおきさはやさ)

おじいさん

おばあさん

まご

犬

ねこ

ねずみ

かぶ

やつと ~~かぶ~~ かぶはぬけました。

やつとぬけたぞー。
うれしいな。
みんな、ありがとう。
みんなでちからをあわせてがんばったおかげだ。
これでかぶがたべられる。